令和6年度　学校経営計画・学校評価シート

高知ろう学校

《高知県の教育の基本理念》	（1）学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 （2）郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 （3）多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	《目指すべき姿》	学校像	○充実したコミュニケーション活動を通し、主体的に生きる力を育成する学校 ★幼児児童生徒の自己実現を可能にする学校 ★保護者と連携・協力・協働できる学校 ★地域に貢献できる存在感のある学校 ★教職員一人一人がやりがいを感じ、力を発揮できる学校	目指すべき取組等の教育現に
《取組の方向性》	《4つの基本方針》 ①『高知家』の全ての子どもたちが、急速に変化する予測困難な今後の社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②『高知家』の子ども誰一人取り残さず、多様な背景・特性・事情等を踏まえた包括的な教育・支援の推進 ③『高知家』の誰もが、生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④『学校における働き方改革』、『チーム学校の推進・強化』、『教員等の人材確保に向けた取組』の一体的推進		児童生徒像	○主体的に学び、表現し、社会とつながる幼児児童生徒 ★『ことば豊かに』 可能な手段を活用し社会とかかわることができる ★『こころ豊かに』 物事を多面的・多角的に考え社会とかかわることができる ★『たくましく』 自己肯定感をもち、積極的に社会とかかわることができる	○　主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善 ・ICTの効果的な活用と評価票を活用した授業改善 ・聴覚障害教育の専門性の向上 ○　よりよく生きる力を育成する カリキュラムマネジメント ・教科等横断的な取組の充実 ・文化・芸術・スポーツ活動の推進 ・地域貢献 ○　高知ろう学校の魅力発信 ・交流及び共同学習の充実 ・安全で安心な学校づくりの推進 ○　働き方改革 ・自己管理能力の向上 ・コミュニケーション・共有・協働を図る ・ワーク・ライフ・バランスの実現

（評価　A:目標を十分に達成　B:ほぼ目標を達成　C:やや不十分　D:改善を要する）

《重点取組項目》

項目		取組のねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】		中間評価【C】		中間評価後の取組内容【P-D】		年度末評価【C】		学校関係者評価		見直しのポイント【A】
教育内容の充実	専門性の向上・授業改善	主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善	【現状】 ・教員のICTの活用は、教材を提示したり、グループで個人で思考させたりと広がってきている。児童生徒も調べ学習やプレゼンテーションの作成のために活用できている。 ・子どもの実態・課題にあったICTの活用ができている。→86% ・公開授業において重点目標を達成できた。→76% ・専門性研修（聴覚・手話）を実施している。 【目標】 ・児童生徒が授業等で実施に応じたICTの活用ができる。（毎日活用している：日標100%） ・公開授業において重点目標達成率90%を目指す。 ・外部講師を招聘し、聴覚障害についての研修を実施する。 ・手話通訳士による手話研修を年間5回、校内手話検定を実施する。	・一～人1回の公開授業を実施し、評価表を活用した振り返りを行う。 ・個別の指導計画等にICTの活用について記載する。 ・授業等で児童生徒が進んで情報を収集、選択し学習や生活に生かせるアプリを活用する。 ・新任研修、聴覚障害の専門性研修の実施、手話研修を実施する。	A	・公開授業を行った教員については、全員評価を返している。公開授業は、12月末で継続中。 ・ICTの活用について、当初の個別の指導計画には全員記載されている。 ・アプリの活用は、実践中であり、年度末に集約する。 ・専門性向上研修（聴覚）は、終了した。手話については、計画通り進んでいる。	B	・公開授業の実施と評価の継続。 ・高知江の口特別支援学校、盲学校と本校の3校で、合同若年研修を計画し、公開授業を参観し、あう。 ・ICTの活用と研修会の周知、参加の促しを行う。 ・校内手話検定へ向けて自己研修を行う。	A	・公開授業における重点目標の自己評価達成率は、86%と高い。目標の90%には届かなかったが昨年度の76%より上昇がみられる。 ・ICTは、個々の児童生徒に応じた活用がされており、特に思考を可視化できるアプリは効果的であると考える。 ・手話検定については、全員の教員が積極的に取り組み、2月には、聴覚障害者協会を面接官に招き、コミュニケーションの試験を実施する。	B	・ICTの効果的な活用はできていると思われる。 ・子ども達の成長に、課題を可視化するという支援が生かされている。 ・ICTが難しい子どももいる。今後も実態に応じた学習の工夫を継続してほしい。 ・子どもたちに合った教育ができていると思うが、教職員の中では「より主体的な態度を育てたい」という意見が多かった。今後も更に高みを目指してほしい。	・一～人一人の実態に応じた学習の工夫、研究を継続し、深めていく。 ・主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、聴覚障害教育の専門性をより高めていく。
キャリア教育の充実	よりよく生きる力を育成するカリキュラムマネジメント	・教科等横断的な取組の充実 ・文化・芸術・スポーツ活動の推進 ・地域貢献	【現状】 ・校外活動や人とのかかわりを通して、楽しんだり思いを表現したりすることが増える。 ・地域交流、地域の清掃活動を通して連携を深めている。 ・就業体験学習や連絡相談会を実施できている。 ・部活動で基礎体力の向上に取り組んでいる。 【目標】 ・キャリアパスポートを有効活用しキャリア教育を推進することができる。（幼小年1回以上、中高年2回以上） ・地域における鑑賞の機会を設定することで障害の理解や交流を深めることができる。 ・障害者スポーツ大会等へ積極的に参加、観戦することで他者を認め自分を見つめ直す事ができる。 ・商店街の清掃活動を通して地域に貢献することができる。	・個々のキャリア教育の取組をキャリアパスポートにまとめ、それを基に発表する機会を設ける。 ・地域の方を招待し、芸術鑑賞会を実施する。 ・地域交流と親子行事を併せて行い、物づくりを通して障害の理解啓発を行う。 ・障害者スポーツ大会や四国地区聾学校体育大会等に積極的に関われるよう情報提供を行う。 ・地域の商店街の清掃活動を行う。	B	・キャリア教育については、各学部で進めている。 ・6月に芸術鑑賞会を実施し、保護者（11名）、地域（2名）、併置校の生徒等（46名）、関係機関（6名）に観劇してもらえた。鑑賞会までの取組として、各学部で分担して地域にチラシを配ってご交流することができた。 ・四国地区聾学校体育大会には、選手として参加する選手はいなかったが、生徒会長が運営に参加した。 ・地域の清掃活動は、2か月に1回予定しているが、猛天候等のため、まだ実施できていない。	A	・キャリア教育の実施、就業体験の実施と各学部で報告会を行う。 ・進路相談会を8月上旬に実施した。 ・四国地区聾学校巡回美術展で各県の作品を鑑賞する。 ・地域の清掃活動の実施。	A	・就業体験学習を行い、卒後を見通した体験ができた。（高：6名、計7回） ・高3生徒2名の進路を決定することができた。（他の2名は現在活動中。） ・進路相談会に家庭・関係機関が参加し、必要な支援や今後の連携について情報を共有することができた。 ・今年度は芸術に力を入れ、芸術鑑賞会を開催した。保護者、地域、みかづき分校を招待したくさんの方々と楽しむことができた。案内のポスターは、地域清掃の時に手渡しするなど交流のきっかけを作った。 ・四国地区聾学校巡回美術展は、作品がデータ化になったため、職員室前のモニターで随時見られるようにした。 ・四国地区聾学校体育大会は、本校からの参加選手はいなかったが、生徒会長が運営に参加し、教職員全員の協力のもと無事終えることができた。	A	・高等部の生徒は自分の目標を持っているという印象を受けて感心した。 ・卒業生と保護者等との交流の機会があった。子どもたちの将来が見えて良い。今後も続けてほしい。 ・18歳を超えても、障害の重い人の学びの場が増えることを望む。 ・PTAの社会見学では、実態に合わないところが多かった。今後の連絡開拓に期待する。 ・就業体験が連絡に生かされている。 ・卒業生が学フリピックでも活躍している。多方面で頑張っている卒業生と在校生との交流があるのが良い。 ・色々な人に出会うことがキャリア教育にもつながっている。 ・四国聾学校体育大会の運営に生徒会長が携わったのも良かった。 ・生きていく力を付けて行くことが大切だと思う。芸術鑑賞会等も、生活を豊かにする取組だと思う。	・キャリア教育についての教職員の理解を深め、共通認識を持って取組を深めていく。 ・引き続き文化・芸術・スポーツ活動の推進を図る。 ・地域資獻への意識を より高め、更に連携を強めていく。
聴覚障害教育センター的機能の充実	高知ろう学校の魅力発信	・交流及び共同学習の充実 ・安全で安心な学校づくりの推進	【現状】 ・地域の保育園、小中高等学校、特別支援学校、県外の聴覚特別支援学校との交流、居住地校交流が充実している。 ・難聴学級等の支援、交流等を通して聴覚障害のセンター的役割を果たしている。 【目標】 ・学校内外の教育相談等を充実させ、聴覚障害教育のセンター的機能を発揮することができる。（学校評価:子ども3思う58%→65%以上） ・居住地校交流、学校間交流（それぞれ2回以上）、県外の聴覚支援学校（1回以上）等との交流を積極的に推進できる。 ・関係者が連携協力し医療ケア児が安心安全に学校生活を送れるようサポートできる。（マニュアルの点検、避難訓練等の実施年間4回）	・サポート事業の充実、体験入学や難聴学級等の交流の場を設定する。 ・居住地校交流の継続、新入生の実施と相手校との連携を強化する。 ・地域校等と行事や学習を通して交流を深める。 ・生徒会等を中心とした交流を実施する。 ・看護職員を中心とした医ケアの緊急時対応マニュアルの見直しと周知を行う。 全校一斉の避難訓練、防犯訓練に加え、医ケア児、単独移動が困難な児童等への緊急時対応訓練の実施を行う。	A	・サポート事業は18校12回実施、サマースクールでは、幼小参加者21名、保護者等参加者21名で交流学習・研修を行った。また、体験入学では、幼3名、小8名の参加があった。聴力の体験2名、来校相談9件。 ・地域校交流は、2/3実施済。相手校の文化祭に参加し、手話ブースを設置してもらい交流した。 ・併置校との交流1回実施。 ・年間計画において幼小中学部の居住地校交流を実施。 ・四国地区聾学校とのオンライン交流を実施。 ・地震避難訓練、火災避難訓練、シェイクアウト訓練を各1回ずつ実施。 ・下宿者対応研修実施。 ・看護師と共に、医ケア児緊急時対応マニュアルを見直し、コードブルー訓練を実施。	A	・校内実践報告会で、教育相談業務やサポート事業の実施について周知、報告を行う。 ・高知県の障害理解啓発事業へ協力する。 ・地域校交流3回目の実施。 ・居住地校交流の実施。 ・四国地区聾学校中学部とのオンライン交流の実施。 ・避難訓練の実施。 ・緊急時対応マニュアルの見直し後の職員への周知。	A	・教育相談の充実や地域交流等の機能的な発揮により今年度の学校評価アンケートの「聴覚障害教育のセンターの機能を発揮することができる」の評価は、保護者90%、学校関係者100%、教職員95%と目標値の65%以上を大幅に超えることができた。 ・12月に「高知県における言語化して手話の普及等の推進に関する条例」が施行され、今後ろう・高知ろう学校がセンターの役割を積極的に担うことが望まれる。 ・高知江の口特別支援学校とのオンライン交流を実施。（中学部） ・Jアラート訓練を実施。みかづき分校との合同避難訓練や防災体験学習を実施。 ・今年度は2回の南海トラフ地震臨時情報が発表され教職員の対応や、児童生徒等の引き渡し訓練を保護者と必要がある。また、地震の際の家庭との連絡方法（すぐーる、災害用伝言版）のテストを行っていく予定である。	A	・手話言語条例に伴って、手話に対する意識も高まってきていると思う。教員の手話検定の補助金等についても継続して検討してほしい。 ・今後の教育のためにも色々な制度を作っていかなければいけないと思う。 ・専門性を持った先生が減っていくのが課題。指導力を高めるのも行政の役割。その点を他県に教育行政に働きかけることができるのではないか、是非、この意見を委員会に報告してほしい。 ・手話条例の施行を機会として資格取得のための環境整備を県に要望する。 ・今後は校内の教職員のサポートも強化し、総合的なセンター的役割を担っていくことを期待する。 ・安心安全の取組においては、通学時に災害にあった時に対応できるように、学校と保護者、地域、関係者が一緒に勉強していけると良いのではないか。 ・地域の聴覚障害者の方にはコミュニケーションボードを渡している。子どもたちにも必要ではないか。 ・他校でスクールバス通学時に災害にあった時の対応を聞くことができた。参考になると思う。 ・聴覚障害教育の専門の教授が県内にいないこと、全国的にも少ないことが心配。	・教職員の専門性の育成と継承のための手立てについて、関係機関と連携して検討していく。 ・居住地、地域の学校、県外の聾学校等との交流を継続し、学習をより深めていく。 ・地域や保護者等との連携をより強め、継続して安全で安心な学校づくりに取り組む。
働き方改革		・自己管理能力の向上 ・コミュニケーション・共有・協働を図る ・ワーク・ライフ・バランスの実現	【現状】 ・長時間勤務者は報告されていない。 ・水曜日の会を入れない日、定時退庁の日は定着している。 ・時期によって業務内容が個人に偏ることがある。 【目標】 ・ワークライフバランスを整えることができる。（長時間勤務者0人） ・不祥事防止に向けてお互い声を掛け合うことができる。（校内での不祥事発生0件） ・各学部の情報共有ができる。	・夏季休業中の閉庁日を設ける。 ・水曜日の定時退校、会議等を入れない日と設定する。 ・各部署の会議等で業務の進捗状況を共有し、業務について協力しあう。 ・主事会を開催し、学部間での情報等を共有し、風通しの良い環境を作る。 ・グループウエアを活用し情報共有や連絡を行い会議の精選を行う。 ・不祥事防止委員会を設置し、研修の実施、不祥事防止月間の設定を行う。	A	・8月13日～16日まで閉庁日とした。 ・水曜日の定時退校、会議等を入れない日は定着しており、この日に適応や介護等を入れる職員が増えている。 ・グループウエアを活用することで、縦ヶとした会議を削減している。 ・不祥事防止委員会での情報共有、スクールロイヤー、校長による研修の実施、管理職による校内巡視は継続して実施。	B	・水曜日の定時退校、会議を入れない日の継続。 ・グループウエア、すぐーる、ホームページの活用を継続し情報発信を行う。 ・主事会、不祥事防止委員会で継続して情報共有を行う。 ・管理職による校内巡視の継続。	B	・行事の担当者に仕事が偏り、長時間勤務者を出してしまった。他教員の支援体制を構築し、相談しやすい環境を作らなければならないと感じている。 ・不祥事防止研修は、続けることが大切であると感じている。不祥事防止月間の設定、研修の実施、職員会、職朝等での周知等で常に意識していくことが重要であると思う。 1月の不祥事防止月間は、アンケート機能による意見の集約を行った。	B	・行事担当の総括が偏りと業務を割り振りつらく、業務量の偏りが生じた。その結果、一時期、残業時間が増えた人がいる。 ・今年度のケースでは当事者からヘルプ要請が出て管理職が対応できたところが素晴らしい。 ・学校は時間の管理意識がうしい職場だと思う。無駄がない。教員は労働基準法が適応されていないことを自覚しないといけない。委員会がシステム化して管理すると、教員の仕事が減ると思う。 ・地域で協力できることもあるのではないか。関係機関と連携して、教員がそれぞれの教育に専念できる環境を作るべき。 ・朝の交通安全指導、夜の地域パトロールも含めて、検討する。 ・企業が初任給を上げている時代なのに、このままでは教員になる人がいない。県として是非、システム管理を考えてほしい。そうすればOJTの時間も増える。 ・本校では不祥事がなかったのではっとしている。 ・昔良かったことが今はハラスメントになることが多い。具体的に何がいけないかを明示して理解啓発をしないと不祥事根絶は難しい。具体的な事例を示していくことが必要。 ・性に対する学習会があるのは良いと思う。子どもたち自身が何かあった時に発信する力も必要。今年の取組内容はより踏み込んだ内容で良かった。今後も続けてほしい。 ・教職員同志、日頃からのコミュニケーションを心がけ、管理職も面接などにより取り組んでほしい。 ・今後は子ども食堂のフードバンクにも取り組ませたい、PTAにもフードバンクを広めたい。関係者にもぜひ協力してほしい。 ・今後の地域交流についても引き続き深めていきたい。	・ワークライフバランスの意識向上及び実現のため、関係機関との連携を図る。 ・業務内容を見える化することで、均衡を図る意識を高める。 ・水曜日を「会議を入れない日」「定時退校の日」として継続し、時間に余裕を持たせることで、心身の健康やコミュニケーションの充実を図る。